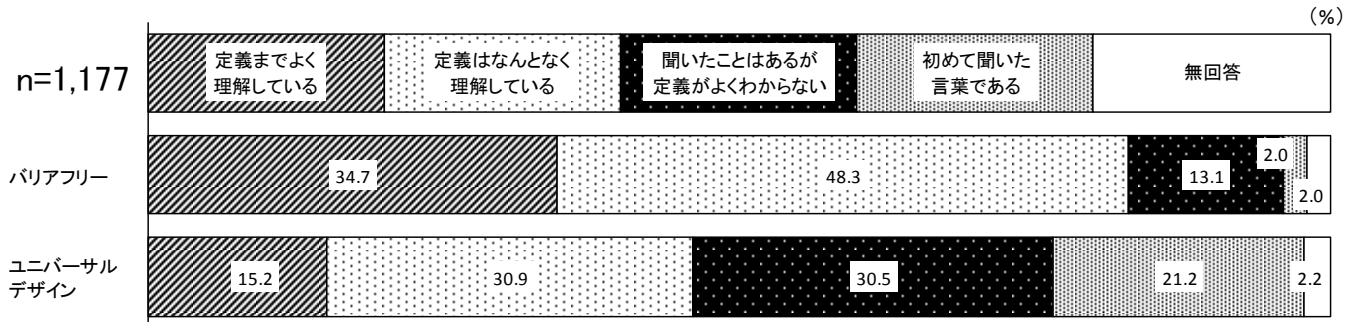


## 5 バリアフリー・ユニバーサルデザイン

問8 あなたは「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知でしたか。

(○はそれぞれ1つ)

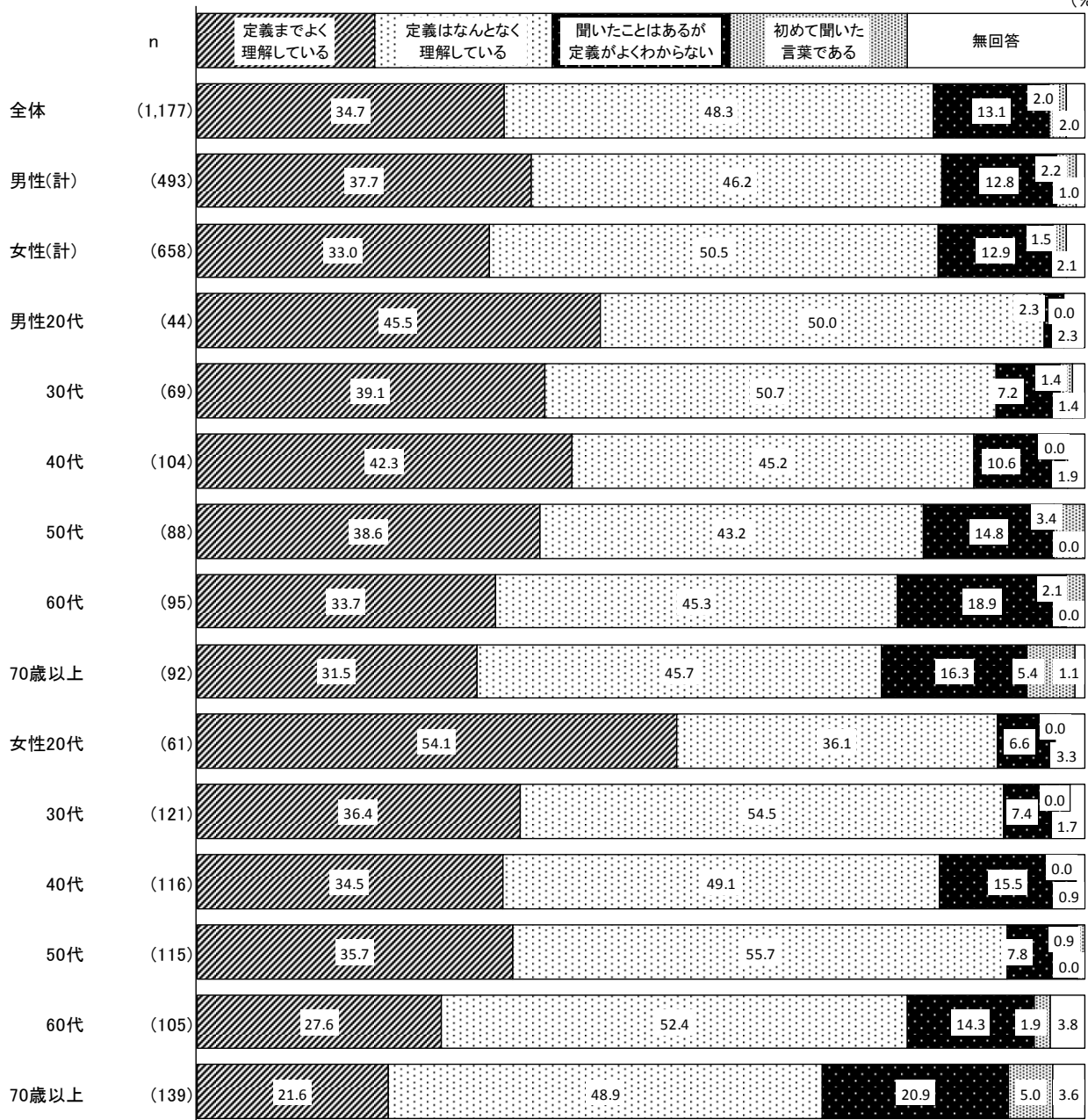


- ・バリアフリーについては「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」の合わせた『理解している（計）』人は83.0%と8割台半ば近くの人が理解している。
- ・ユニバーサルデザインについては「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している（計）』人は46.1%と4割台半ばを超えるにとどまっている。
- ・前回調査と比べて、バリアフリーについては8割台半ば近くの認知度と同水準となっているが、ユニバーサルデザインについての認知度は上がっているものの、依然として半数以上の人認知していない結果となっている。

【「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度×性／年代別】

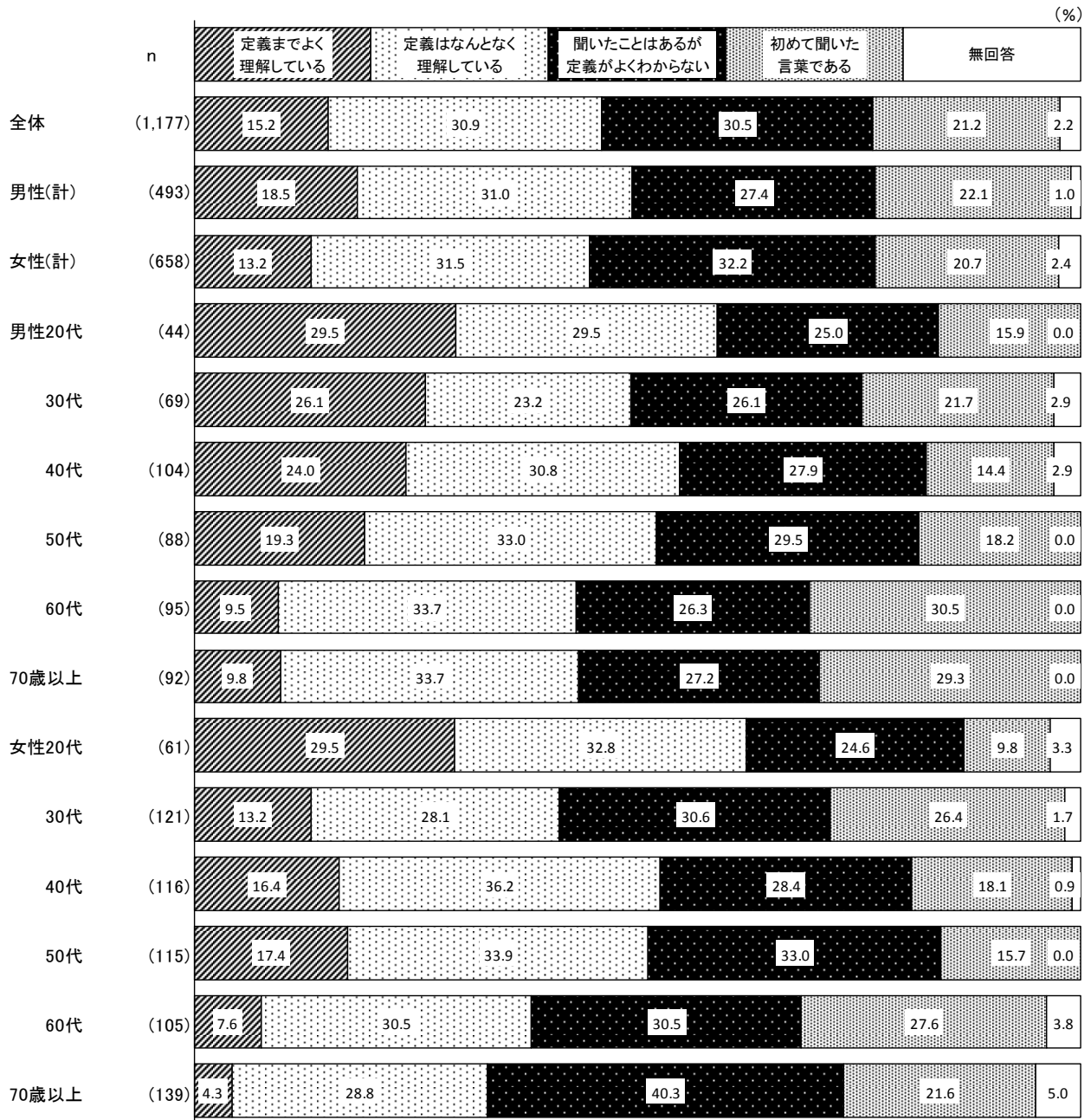
・バリアフリー

(%)



- ・バリアフリーについて性別にみると、「定義までよく理解している」、「定義は何となく理解している」を合わせた『理解している（計）』という人は男性（計）83.9%、女性（計）83.5%と、男女とも8割台半ば近くとなっている。
- ・一方、「聞いたことはあるが、定義がよくわからない」は男女とも年代が上がるほど割合が高くなる傾向にある。
- ・年代別にみると、「定義まで理解している」では男性20代で45.5%、女性20代で54.1%と他の年代別に比べ割合が高くなっている。一方、女性70歳以上では「聞いたことはあるが、定義がよくわからない」は20.9%と他の年代に比べ割合が高くなっている。

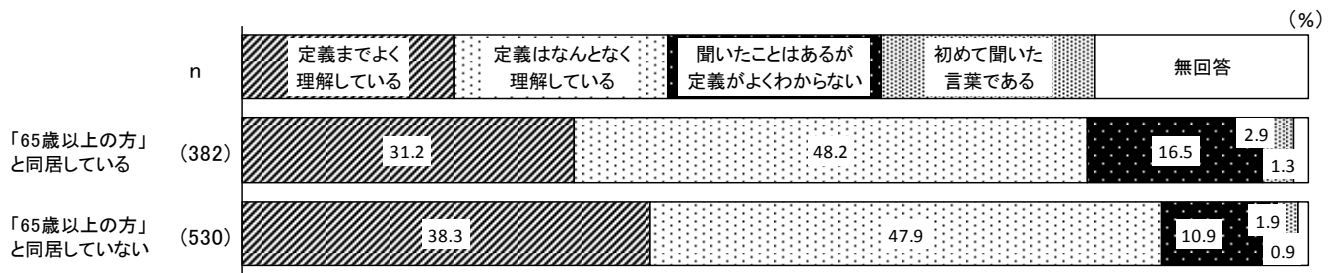
・ユニバーサルデザイン



- ・ユニバーサルデザインについて性別にみると、「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」の合わせた『理解している（計）』人は、男性（計）が49.5%と女性（計）44.7%を4.8ポイント高くなっている。バリアフリーに比べユニバーサルデザインについては全体的に認知度が低い。
- ・年代別にみると男性20代、女性20代で「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している（計）』人は5割を超えている。
- ・「初めて聞いた言葉である」では男性60代、70歳以上で約3割を占め他の年代に比べやや高い割合となっている。
- ・「聞いたことはあるが、定義がよくわからない」では女性70歳以上で40.3%と約4割と、他の年代に比べ高い割合となっている。

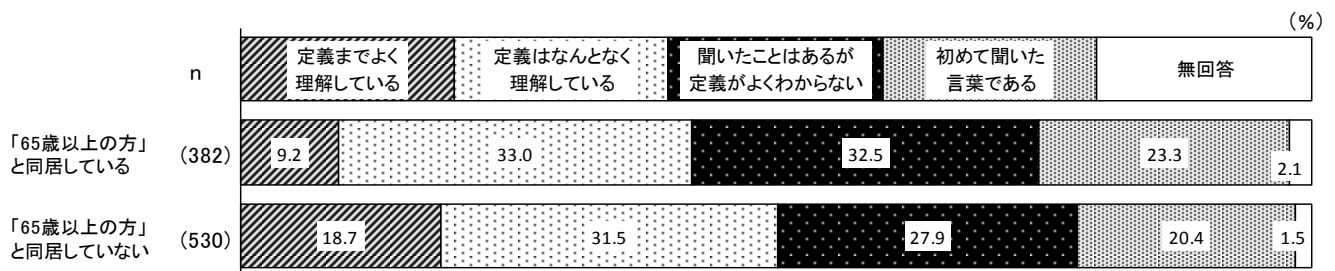
【「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度×65歳以上の方との同居の有無別】

・バリアフリー



・65歳以上の方との同居別でみると、同居していないという人のほうが「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している（計）』が86.2%、同居しているという人では79.4%となっている。

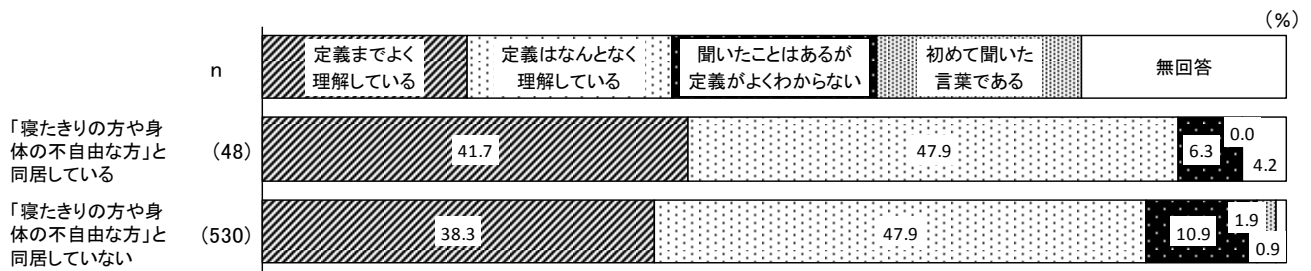
・ユニバーサルデザイン



・65歳以上の方との同居別でみると、同居していないという人のほうが「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している（計）』が50.2%、同居しているという人では42.2%となっている。

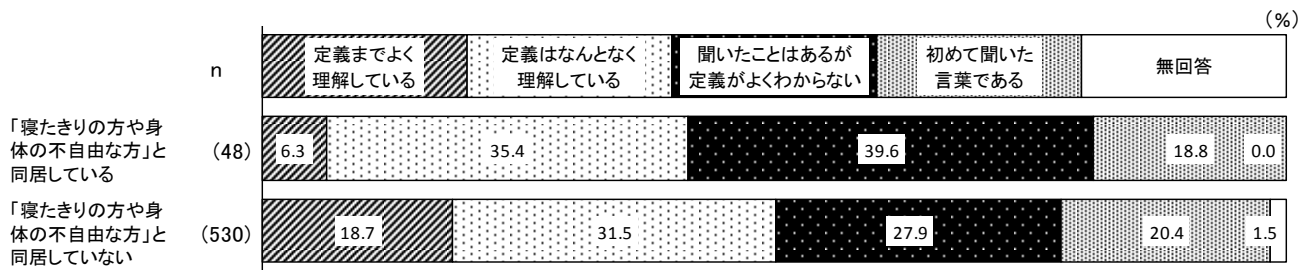
【「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度×寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別】

・バリアフリー



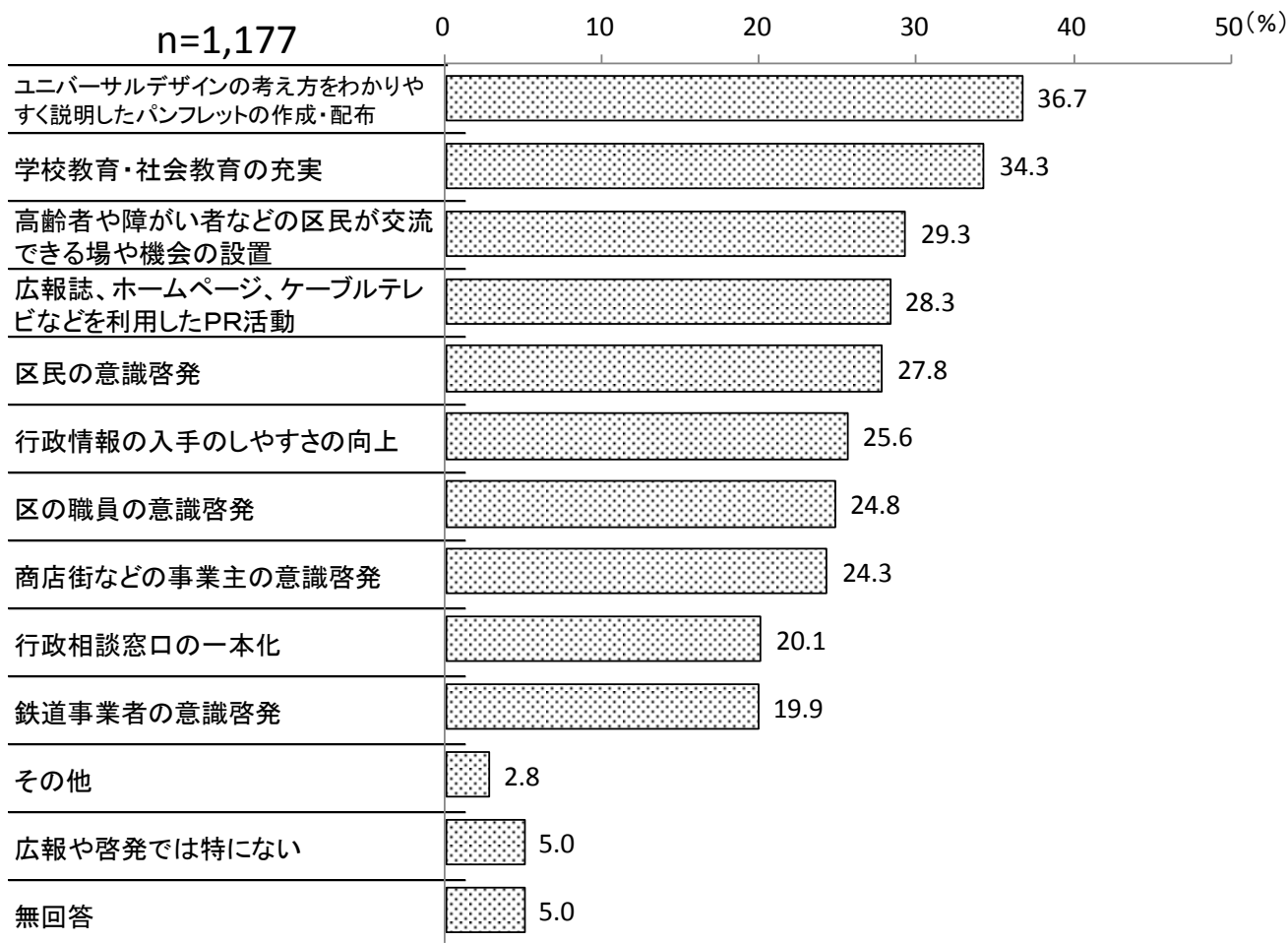
・寝たきりの方や身体の不自由な方との同居別でみると、同居しているという人のほうが、「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している（計）』が 89.6%、同居していないという人では 86.2%と、8割以上の人に認知されている。

・ユニバーサルデザイン



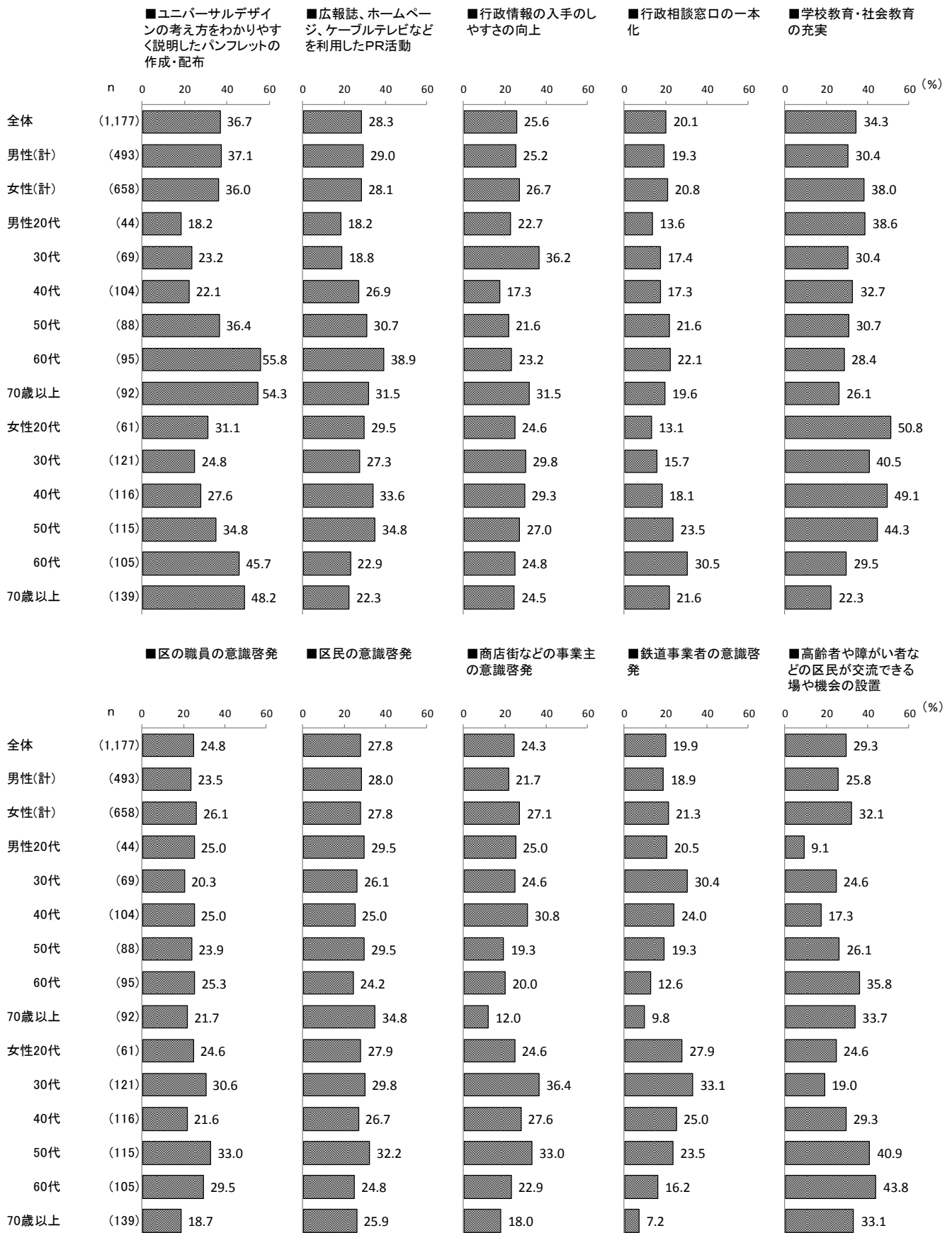
・寝たきりの方や身体の不自由な方との同居別でみると、同居していない人のほうが「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している（計）』が 50.2%、同居しているという人では 41.7%となっている。

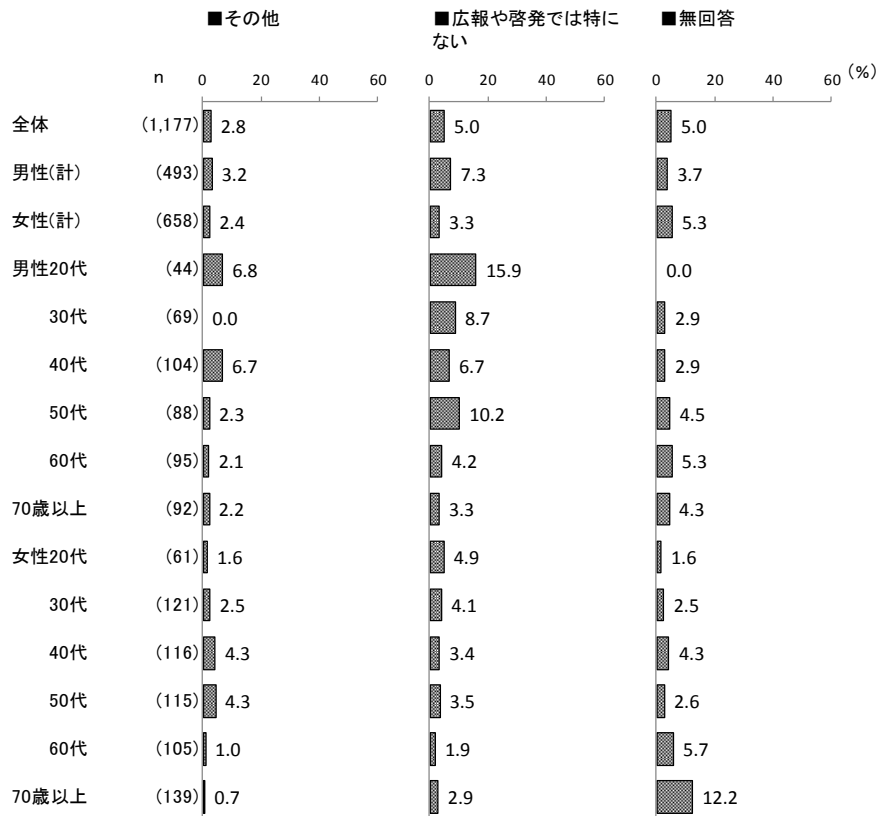
問9 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



- ・ 全体では「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が36.7%と最も高い割合となっている。次いで、「学校教育・社会教育の充実」(34.3%)、「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」(29.3%)、「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」(28.3%)の順となっている。
- ・ 前回調査と比べ、上位2項目は「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(前回調査36.9%)、「学校教育・社会教育の充実」(前回調査34.9%)で変動はないが、前回調査で7位であった「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」(前回調査27.3%)が3位にあげられている。

【バリアフリーやユニバーサルデザインの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う取り組み×性／年代別】

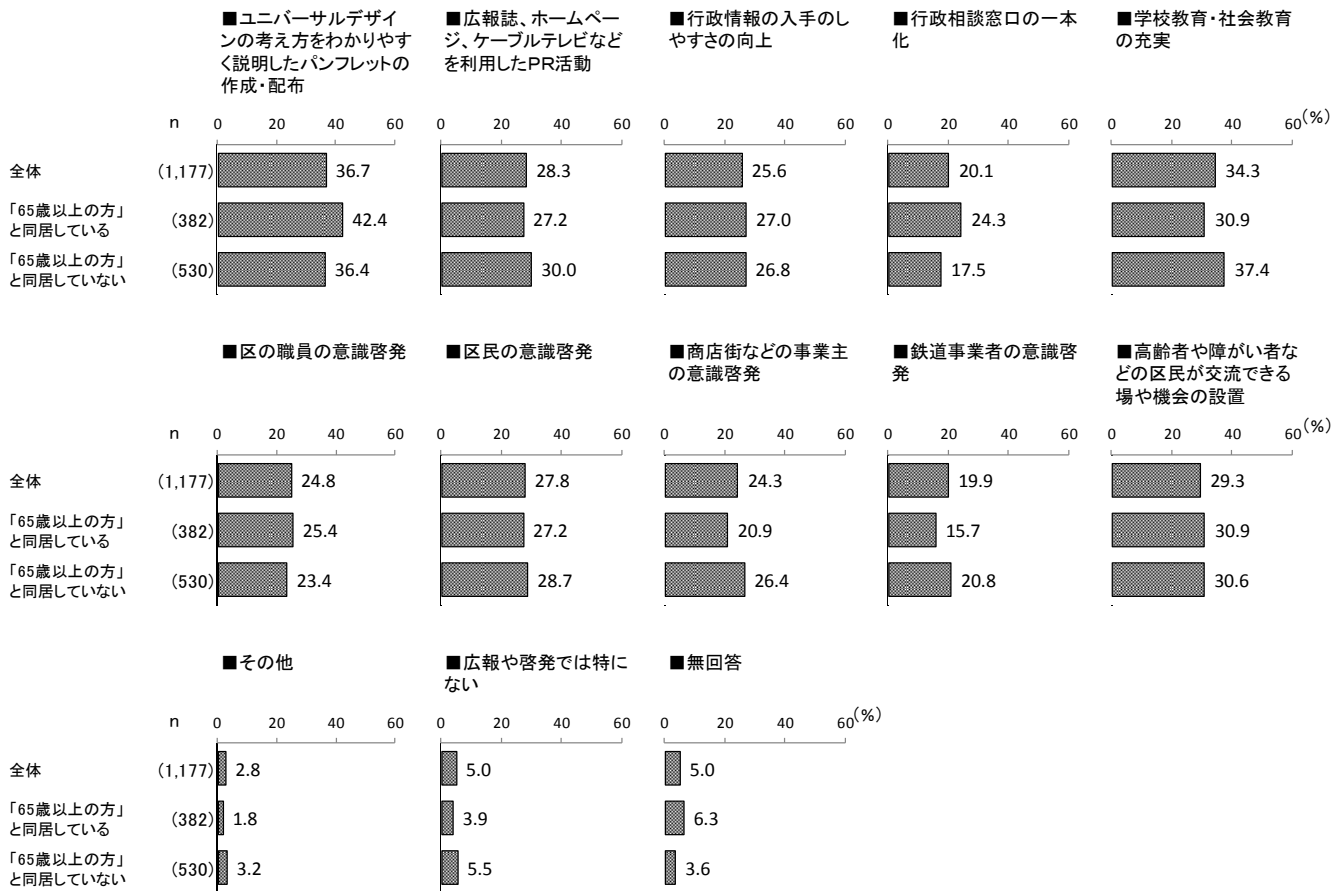




- ・性別にみると、男性（計）では「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が37.1%と最も高い割合となっている。女性（計）では「学校教育・社会教育の充実」が38.0%と男性（計）30.4%に比べ7.6ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、男性60代、70歳以上で「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が5割台半ばと高い割合となっている。男性30代では「行政情報の入手のしやすさの向上」が36.2%と他の年代に比べ割合が高くなっている。
- ・女性20代では「学校教育・社会教育の充実」が50.8%、また50代、60代では「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」が4割以上を占め、他の年代に比べ高い割合となっている。

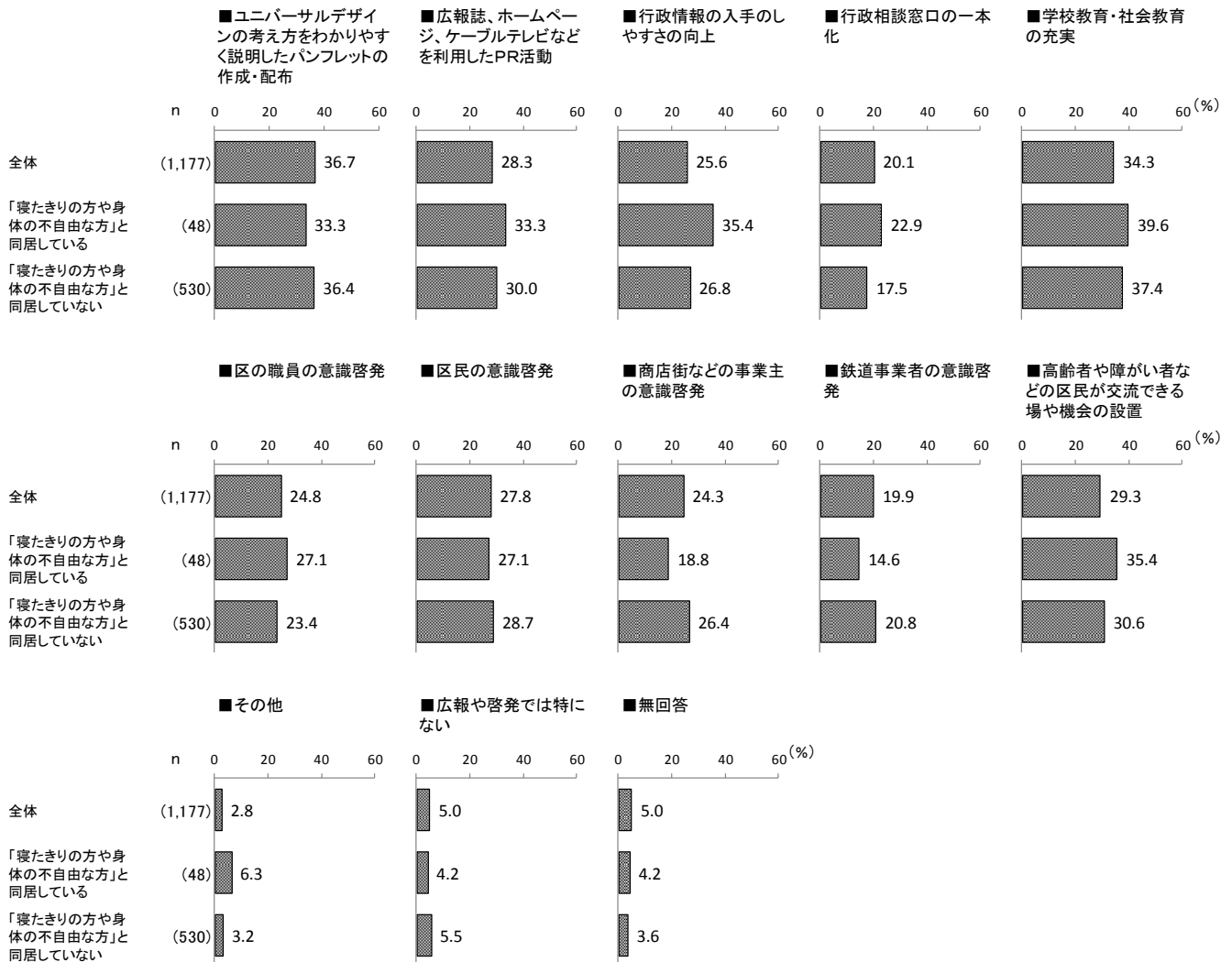


【バリアフリーやユニバーサルデザインの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う取り組み×65歳以上の方との同居の有無別】



- ・ 65歳以上の方との同居別で見ると、同居している方では「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が42.4%と全体に比べ5.7ポイント、同居していない方では「学校教育・社会教育の充実」が37.4%と全体に比べ3.1ポイント高くなっている。
- ・ 同居している方で「鉄道事業者の意識啓発」が15.7%と全体に比べ4.2ポイント低くなっている。
- ・ 同居していない方で「行政相談窓口の一本化」が17.5%と全体に比べ2.6ポイント低くなっている。

【バリアフリーやユニバーサルデザインの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う取り組み×寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別】



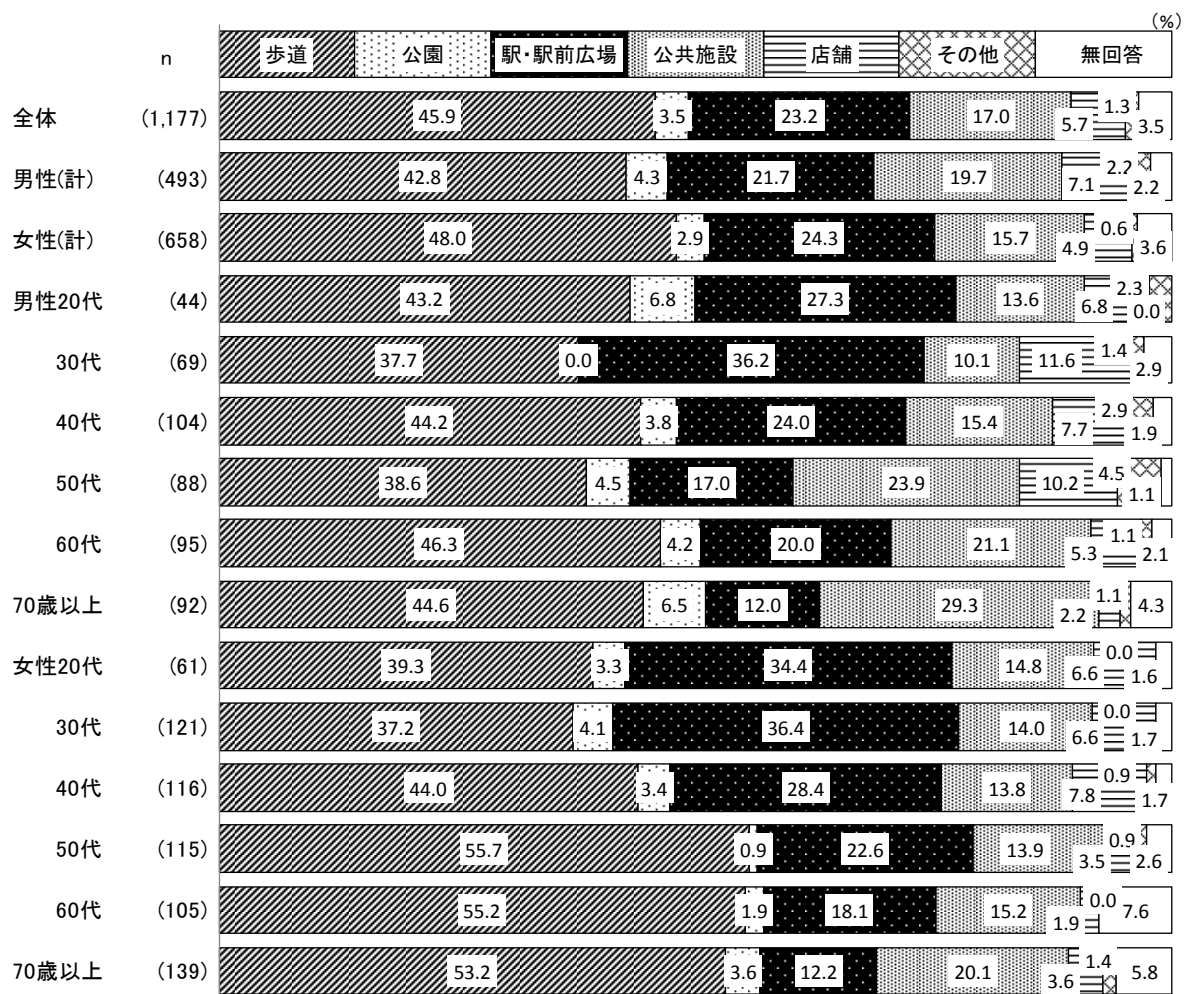
- ・寝たきりの方や身体の不自由な方との同居別で見ると、どちらも「学校教育・社会教育の充実」が最も高い割合となっている。全体と比べても同居している方は5.3ポイント、同居していない方は3.1ポイント高くなっている。
- ・同居している方では「行政情報の入手のしやすさの向上」(35.4%)が9.8ポイント、「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」(35.4%)が6.1ポイント、全体に比べ高くなっている。
- ・一方、同居していない方では「行政相談窓口の一本化」(17.5%)が全体に比べ2.6ポイント低くなっている。

問 10 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、区として、より力を入れて整備すべき場所は、どのような場所だと思いますか。(〇は1つ)



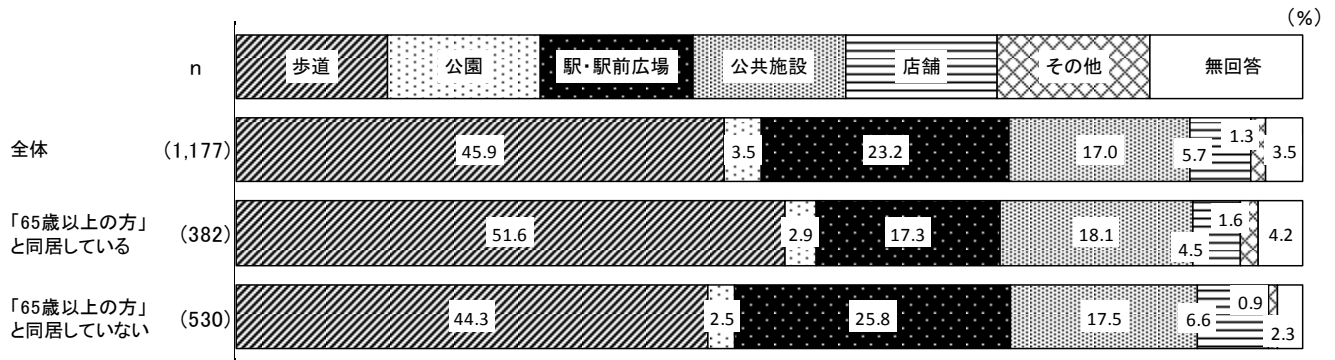
- ・全体では「歩道」が45.9%と高い割合となっている。次いで、「駅・駅前広場」(23.2%)、「公共施設」(17.0%)、「その他」(5.7%)の順となっている。
- ・前回調査と比べて、今回最も割合の高い「歩道」は54.7%から45.9%と8.8ポイント下がっている。また「公共施設」は12.1%から17.0%と4.9ポイント上がっており、前回調査に比べ公共施設を整備すべき場所としてあげる人が多くなっている。

【バリアフリーやユニバーサルデザインの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所×性／年代別】



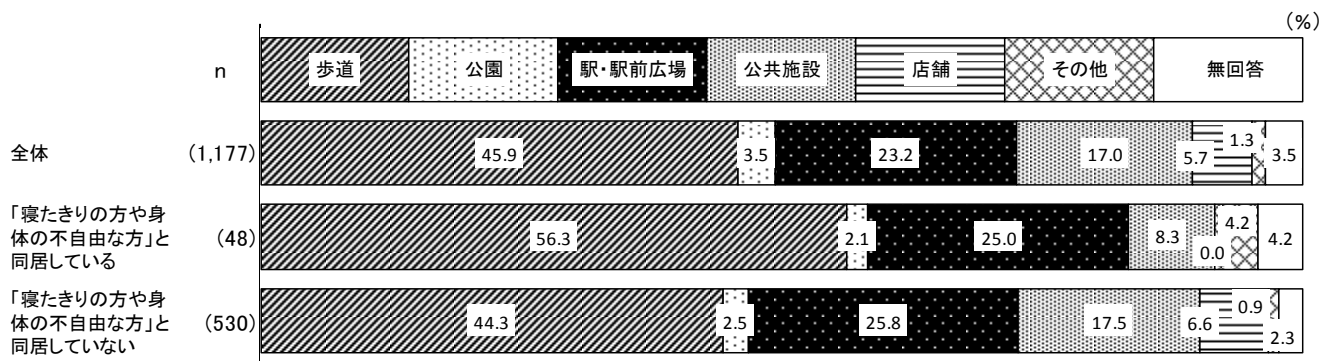
- 性別で見ると、「歩道」は女性（計）が48.0%と男性（計）42.8%に比べ5.2ポイント高くなっている。
- 年代別にみると、男性30代では「駅・駅前広場」（36.2%）、70歳以上では「公共施設」（29.3%）の割合が高くなっている。また「店舗」では30代、50代で1割以上を占め他の年代に比べ割合が高くなっている。
- 女性50代以上では「歩道」が5割以上を占めており他の年代に比べ割合が高くなっている。20代、30代では「駅・駅前広場」が3割以上を占め、他の年代に比べ割合が高くなっている。

【バリアフリーやユニバーサルデザインの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所×65歳以上の方との同居の有無別】



・65歳以上の方との同居別で見ると、どちらも「歩道」が最も割合が高くなっている。特に同居している方では51.6%と全体に比べ5.7ポイント高くなっている。同居していない方では「駅・駅前広場」が25.8%と全体に比べ2.6ポイント高くなっている。一方で、同居している方では17.3%と5.9ポイント低くなっている。

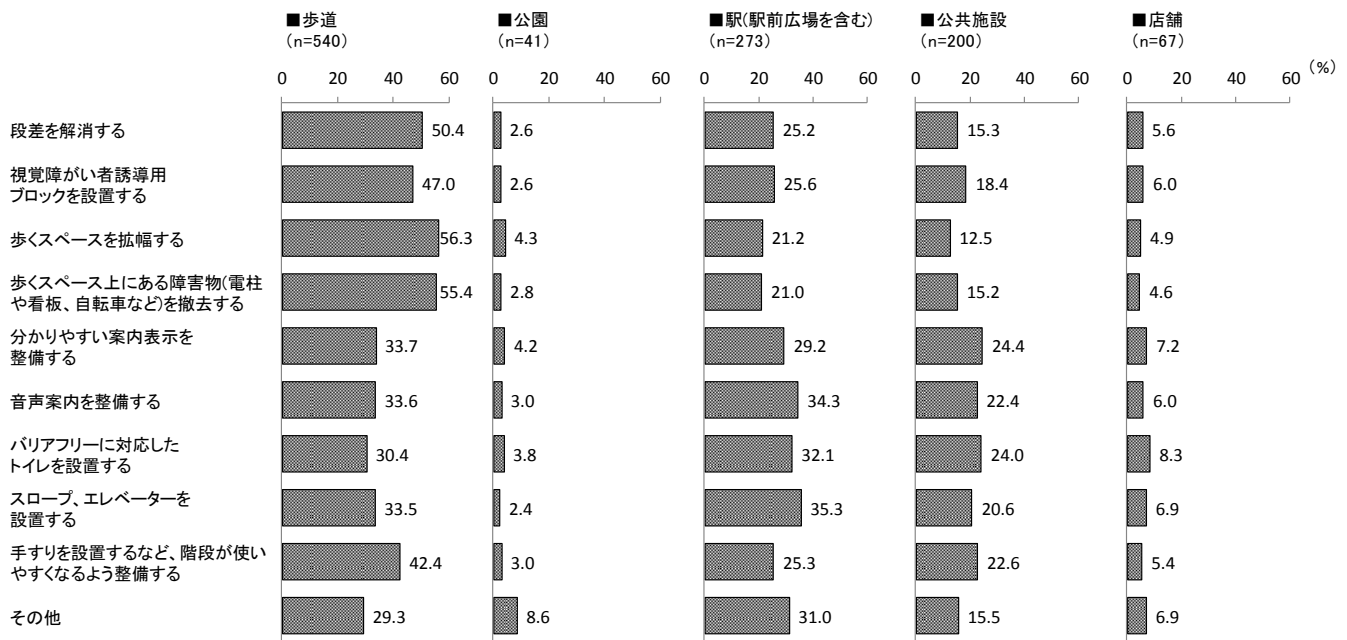
【バリアフリーやユニバーサルデザインの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所×寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別】



・寝たきりの方や身体の不自由な方との同居別で見ると、同居している方では「歩道」が5割台半ばを超え、全体に比べ10.4ポイント高くなっている。

問 10-1 問 10 で選んだ場所について、区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)



・ 前回調査では全ての項目で「段差を解消する」が最も割合が高かったが、場所により要望が変わってきている。

・ 歩道

「歩くスペースを拡幅する」(56.3%)、「歩くスペース上にある障害物(電柱や看板、自転車などを撤去する)」(55.4%)

・ 公園

「歩くスペースを拡幅する」(4.3%)、「分かりやすい案内表示を整備する」(4.2%)

・ 駅(駅前広場を含む)

「スロープ、エレベーターを設置する」(35.3%)、「音声案内を整備する」(34.3%)

・ 公共施設

「分かりやすい案内表示を整備する」(24.4%)、「バリアフリーに対応したトイレを設置する」(24.0%)

・ 店舗

「バリアフリーに対応したトイレを設置する」(8.3%)、「分かりやすい案内表示を整備する」(7.2%)

その他の意見としては、

- ・ 歩道と車道の線がない所があり不安
- ・ 歩道橋にエレベーター設置 (片側2基)
- ・ 歩道橋の傾斜 (年寄が荷物を持って渡る不便さを考えて欲しい)
- ・ 車イス用トイレの増加

などがあげられており、「歩道」や「歩道橋」など歩くスペースに関する要望が多い。